

第 36 期 事 業 報 告

(自 2024年4月 1日)
(至 2025年3月31日)

株式会社 NHKエンタープライズ

目次
第36期事業報告

I. 会社の現況に関する事項	3
1. 事業の経過および成果	3
2. 事業の分野別の概況	4
(参考) 2024年度 コンクール等受賞一覧	23
3. 対処すべき課題	26
4. 設備投資等の状況	27
5. 資金調達の状況	27
6. 事業譲渡・吸収分割または新設分割の状況	27
7. 事業譲受の状況	27
8. 他の会社の株式その他の持ち分または新株予約権等の取得の状況	28
9. 財産および損益の状況の推移	28
10. 主要な事業内容	28
11. 主要な事業所等	29
12. 従業員の状況	29
13. 重要な親会社および子会社の状況	29
14. 主要な借入先と借入額	30
II. 会社の株式に関する事項	31
III. 会社役員に関する事項	31
IV. 会計監査人の状況	33
V. 業務の適正を確保するための体制および運用状況	34

I. 会社の現況に関する事項

1. 事業の経過および成果

「2024-2026年度 中期経営計画」の初年度に当たる2024年度、株式会社NHKエンタープライズ（NEP）は、計画で掲げた5つの重点項目を柱に、定時や特集の数多くの番組やイベント・デジタルコンテンツの制作、ライセンスの許諾、映像ソフトの販売など、様々な分野で積極的な取り組みを続けました。前年の受信料値下げとBS波削減を受けNHK委託が減少する中でも、魅力的な新番組の開発を進め、番組を展開したイベントやサービスを全国で行うなど、部門の連携を深めて事業の強化に努めました。

当期の売上高は618億5千8百万円、営業利益は36億3千4百万円、経常利益は37億2千7百万円、当期純利益は25億9千6百万円。いずれも目標とする事業計画を達成することができました。過去2番目の売上だった前年度に比べると、NHK番組制作の減などにより減収とはなりましたが、固定費の削減や効率的な番組制作などに努めた結果、前年度比で増益とすることができました。

NHK関連業務では、幅広い世代に向けて多彩な番組を制作。看板番組の「チョコちゃんに叱られる！」や「映像の世紀バタフライエフェクト」などに加えて、新番組では、NHKの過去の名作を見直しそのメッセージを読み解く「時をかけるテレビ～今こそ見たい！この1本～」や「新プロジェクトX～挑戦者たち～」などを制作し、好評を博しました。ドラマでは、「燕は戻ってこない」「宙わたる教室」「東京サラダボウル」など話題を呼び高い評価も得た作品を手がけたほか、世界配信で大ヒットした国際霊柩送棺士たちの物語「エンジェルフライト」がBSで放送されました。また特集では、NHKスペシャルの「“一億特攻”への道 ～隊員4000人 生と死の記録～」や「ディープオーシャン 幻のシーラカンス王国」といった、長期の綿密な取材に基づくNHKならではの上質な番組を制作しました。2025年の「放送100年」に向けては、貴重な過去の映像資産を活用した「みんなのベスト紅白」や「伝説のコンサート」シリーズなど、過去の映像を4K画質に変換するNEPビデオレストアサービスも活用した番組を制作して、大きな反響を得ることができました。

番組と連動した事業では、大河ドラマ「光る君へ」「べらぼう」や連続テレビ小説「おむすび」「あんぱん」を中心に番組と連動したトークショー、パブリックビューイングなど各種の関連イベントを自治体とも協力して各地で開催し、多くの参加者を集めて地域の振興にも資する取り組みを行いました。

その他のイベントでは、大分県での「全国豊かな海づくり大会」や、岐阜県での「国民文化祭」「全国障害者芸術文化祭」、東京デフリンピックの1年前イベントなど、公共性や社会貢献度の高い事業に精力的に取り組みました。

NHK委託の減少を受けて力を入れている展開事業では、長年テレビアニメを制作してきた作品の映画版として手がけた「劇場版 忍たま乱太郎 ドクタケ忍者隊 最強の軍師」が観客200万人を超える大ヒットとなりました。この影響で、テレビアニメ旧作の配信や自主事業で行っているミュージカル「忍たま乱太郎」など、様々なコンテンツの人気も高まり、これまで以上に多くの人に「忍たま」の魅力をお届けすることができました。

次期2025年度も、展開の起点となるNHKを代表する番組の開発や、アニメ、ドラマ、ライブエンターテインメントやイベントなどの分野で、強い訴求力を持つコンテンツを生み出す試みを全社を挙げて進めていきます。展開に関しては、部門を超えた協働を進め、多様な施策を開発・実行することで、NHKブランドの魅力を広く国内外に発信して、副次収入などによるNHKへの財政貢献をしっかりと果たしていきます。経営理念「Enterprises for All! 冒険、創造、貢献。社会のために、すべての人のために!」のもと、真のコンテンツ総合企業としてNHKに貢献し、社会に多様な価値を提供する取り組みを、全社一丸となって推進していきます。

2. 事業の分野別の概況

(1) <放送番組制作>

2024年度は、前年に始まった受信料の値下げやBS波削減の影響でNHK委託が減る中でも、多くの視聴者に訴求できる上質で見応えのある多様な番組の開発と制作に取り組みました。ドラマやドキュメンタリー、アニメやエンターテインメントなどNHKのテレビやラジオを合わせて年間で19,549本の番組を制作。売上高は382億3千2百万円でした。

番組コンクール関係では、「ミラドール 絶景を聴く」がABU（アジア太平洋放送連合）賞とAAA賞（アジア・アカデミー・クリエイティブ・アワード）、「NHKスペシャル 関東大震災」がベネチア国際テレビ賞最優秀賞とニューヨーク・フェスティバル大賞、「NHKスペシャル シリーズ“宗教2世” 神の子はつぶやく」が放送文化基金賞最優秀賞、「連続ドラマW フェンス」がギャラクシー賞大賞、「新・爆走風塵 中国・トラックドライバー 生き残りを賭けて」がATP賞テレビグランプリ最優秀賞、「デフ・ヴォイス 法廷の手話通訳士」が東京ドラマアウォードグランプリ、「せーの!で編集してみたら」がATP

上方番組大賞グランプリと優秀賞、「ディープオーシャンⅡ アッテンボローのディープオーシャン紅海 神秘の魔境」がルミエール・ジャパン・アワードグランプリと数々の賞を受賞。また「NHKスペシャル “一億特攻” への道 ～隊員 4000 人 生と死の記録」のディレクター大島隆之が15年にわたる特攻取材の到達点を示したとして、芸術選奨文部科学大臣賞新人賞を受賞し、番組自体も上期ギャラクシー賞に入賞しました。この他にも多くの国内外のコンクールで受賞し、制作力の高さを示しました。

制作企画部

制作4センターの調整役として、事業提案のとりまとめや委嘱業務審査会の事務局業務や外部リソース調整業務や番組の音効効果業務を行いました。デジタルシフトプロジェクトで様々な番組のSNS展開にも取り組みました。

社会文化部

NHKらしさを追求した質の高いコンテンツの制作を行いました。総合テレビで放送したNHKスペシャル「山口一郎 “うつ” と生きる～サカナクション 復活への日々」では、うつ病を抱え再起を期すアーティスト・山口一郎さんの姿をつぶさに記録しました。また「“一億特攻” への道 ～隊員 4000 人 生と死の記録～」では、15年に及ぶ取材で特攻隊員約4000人の本籍地や経歴を徹底調査。隊員たちの心情も描きながら、“一億特攻”の真相に迫りました。この番組は、第62回ギャラクシー賞上期入賞（テレビ部門）に決定したほか、ディレクターは芸術選奨文部科学大臣賞新人賞を受賞しました。ドラマ「むこう岸」では、児童文学者協会賞を受賞した原作を映像化。優等生から落ちこぼれに転落してしまった少年がヤングケアラーの少女との交流を通じ、再び未来に希望を見出す物語を描き、貧困ジャーナリズム特別賞を受賞しました。開発番組「熱談プレイバック」は、偉業を成し遂げた人物や、世間を騒がせた衝撃の出来事を講談師の魂を揺さぶる話芸と貴重なアーカイブス映像を融合させた、新しいエンターテインメント番組として反響を呼びました。このほか、定時番組「チョコちゃんに叱られる!」「有吉のお金発見 突撃!カネオくん」「所さん!事件ですよ」「映像の世紀バタフライエフェクト」「時をかけるテレビ」「午後LIVE ニュースーン」などを制作。Eテレでは「世界サブカルチャー史 欲望の系譜」「ギョギョッとサカナ★スター」「美輪明宏 愛のモヤモヤ相談室」「ウチのどうぶつえん」「小雪と発酵おばあちゃん」のほか、ETV特集「巖とひで子 ～袴田事件 58年後の無罪～」 「生誕100年 映画監督 岡本喜八が遺(のこ)したもの」、BSでは「球辞苑」「COOL JAPAN ～発掘!かっこいいニッポン」BSスペシャル「境界の抵抗者たち ～ミャンマーを追われた映像作家の記録～」 「50年目

の悪夢 大虐殺 加害者たちのカンボジア」、特集番組「AI で謎に迫る！ナスカの地上絵」や「第 97 回 アカデミー賞 受賞式」「生中継！べらぼう 江戸の桜絵巻」などの大型中継も手がけました。BS プレミアム 4 K では「世界ふれあい街歩き」「体感！グレートネーチャー」「英雄たちの選択」「新日本風土記」、また NHK ワールドでは「DESIGN×Stories」、「Trails to Oishii Tokyo」などを制作しました。

また、東京国立博物館で開催された「新 JAPONISM」をテーマにしたイマーシブ展覧会の展示映像を制作したほか、東京都のparasports普及啓発事業「TEAM BEYOND」のイベントの企画・運営や配信動画の制作、「NTT R&D フォーラム」の展示映像の設計・制作や基調講演の演出・動画配信など、大型映像から配信動画まで多岐に渡る映像表現に取り組んでいます。

自然科学部

長年にわたって培ってきた海外とのネットワークを駆使して、NHK スペシャル「ディープオーシャン・シーラカンス」、「プラネットアースⅢ」、国際国内共同制作「Mighty Monkey」などの大型自然番組を制作。3つの人気定時番組、総合テレビ「ダーウィンが来た！」「さわやか自然百景」BS「ワイルドライフ」では、自然の尽きせぬ魅力を引き続きお茶の間に届けました。また、BS「ジオ・ジャパン絶景100の旅」（5本）「絶景！ヨーロッパの山小屋」（3本）は昨年度から続く特集番組で、新たな視聴者層の獲得に貢献することができました。

自主事業としては、2027年に横浜で開催される国際園芸博覧会の実施設計や、北海道大学の産学共同プロジェクトとして大阪・関西万博の展示映像の制作を手がけました。また那須どうぶつ王国で実施した「ダーウィンが来た！」のミニコーナー「マニュアルのゆうべ」のコラボイベントや沖縄のやんばる世界遺産センターの映像制作など新たな取り組みも始めました。加えて、フライングシアターやジャイアントスクリーンなどでの新たな映像事業に挑戦する準備として、特殊機材を駆使して日本の自然を8Kで撮影したり、最新の3D技術の検証を進めました。

地域部

7つの地域支社と連携して、番組やイベントを通じて全国各地の魅力を伝えました。主な番組としては総合「うまいっ！」「あさいち 愛でたい nippon & いまオシライブ」「午後 LIVE ニュースーン おまかせ中継」、BS・BSP 4 K 「釣りびと万歳」、国際「Train Cruise」などを各支社との協力で制作。また災害が頻発する中、総合「明日をまもるナビ」では広島局・鳥取局・名古屋局・神戸局で公開収録を実施。地元で起きた災害の教訓をあらためて伝え

ました。他にも総合「ひるまえほっと」、BS・BSP4K「にっぽん縦断こころ旅」「離島で発見！ラストファミリー」、国際「Spiritual Explorers」では、各地で暮らしや伝統を守って奮闘する人々を紹介したり、BS・国際「大相撲どすこい研」、BS「Jリーグと私」など地域を舞台にしたスポーツ番組も制作しました。また放送100年関連特番として、視聴者の記憶に深く刻まれたアーカイブ映像をお届けする、総合「あなたの思い出探します」を制作。加えて2025年が太平洋戦争終結80年、ベトナム戦争終結50年の節目の年であることから、NHKコスモメディアアメリカ（NCMA）と連携してBS・国際「ヒロシマで生まれベトナムで戦った私」を制作しました。

自主事業では四国村ミュージアムや放送サービス高度化推進協会から映像制作を受託。また大河ドラマ「べらぼう」の舞台となる東京都台東区で初回放送のパブリックビューイングとトークショーを実施したり、連続テレビ小説「あんぱん」の舞台の高知県南国市から企画展やトークショーを受託するなど、NHKのIPの展開にも積極的に取り組んでいます。

国際部

国際放送では「Direct Talk」「Global Agenda」など世界情勢を著名人のインタビューやディベートで掘り下げる番組や、「Anime Manga Explosion」「Ethical Every Day」「Yokai」「Culture Crossroads」など日本の社会文化について世界に発信する番組を多数制作しました。国内放送では「BSスペシャル 人新世の地球に生きる ～経済思想家・斎藤幸平 脱成長への葛藤～」「空旅中国 西太后の逃亡」「BSスペシャル “緊迫の現場” で何が ～アメリカ大統領選挙・市民の闘い～」「デジタル・アイ 暗黒船を追え」「国境地帯から見たミャンマー ～“忘れられた戦場”の4年～」など、世界の今を伝えるドキュメンタリーや紀行番組を制作。また「WRC世界ラリー選手権」を1年に渡ってシリーズで放送したほか、ブレイキンやクライミングなどのアーバンスポーツの世界大会についても紹介しました。

2024年度もいくつかの国際的な賞を受賞。「ミラドール 絶景を聴く」がABU（アジア太平洋放送連合）賞およびAAA賞（アジア・アカデミー・クリエイティブ・アワード）に、「NHKスペシャル わが子を手放した日 中国 “一人っ子政策”のその後」がニューヨーク・フェスティバルのドキュメンタリー部門で銀賞に選ばれました。

番組制作支援業務としては、海外現地法人のNHKコスモメディアアメリカ（NCMA）に、大谷翔平選手など日本人選手が活躍するMLBの中継やBS・国際の定時と特集の番組制作を委託してきました。またアメリカ・ニューヨークのスタジオからの国際「NEWS LINE」の制作・送出業務やスタジオ運用管理業務も委託。現地にNCMAという拠点を持つ強みを生かし、幅広くNHKの番組制作を支えました。さらにタイにおいても、当社が出

資する Nippon Production Service (N P S) を通じて、国際放送の取材・制作支援や現地向けNHK番組販売などの分野で業務を推進しました。

ドラマ部

総合テレビでは、多数のドラマを制作しました。ドラマ10では「燕は戻ってこない」(東京ドラマアワード連続ドラマ部門優秀賞受賞)「宙わたる教室」「東京サラダボウル」(ともにギャラクシー月間賞受賞)など話題作を連発し、後者の2作品はAmazonプライムでも配信され、多数の視聴者の獲得に成功しました。土曜ドラマでは、阿部寛主演で震災を正面からとらえた「水平線のうた」を制作。3月に放送され大きな話題となりました。夜ドラでは、人気コミックが原作の「柚木さんちの四兄弟」を制作。若い女性ファンを魅了しました。

BSでは、BS時代劇で、新たに高橋克典を主演に迎えてリニューアルした「大岡越前7」や「雲霧仁左衛門ファイナル」などシリーズものに加え、新作で「むすめ医者おいち」を制作。ファンタジー時代劇という新たなジャンルを開拓しました。また、現代劇「老害の人」もロイヤルカスタマーを中心によく視聴されました。

さらに単発ドラマでは、ヒット作「正直不動産」のスピンオフ「正直不動産ミネルヴァスペシャル」をBSで放送。敵役だったディーン・フジオカを主演に据え、「正直」ファンを大いに喜ばせました。また同じBSで特集ドラマ「憶えのない殺人」を制作。認知症になった老刑事の悲哀を大森美香脚本で描き、ギャラクシー月間賞を受賞しました。また、総合では、人気番組「ダーウィンが来た！」の舞台裏をドラマ化した特集ドラマ「ダーウィンが行く！」を自然番組部とのコラボで制作。創作テレビドラマ大賞「明日、輝く」もみずみずしい演出が評価されました。

米倉涼子主演でAmazon配信で大ヒットした「エンジェルフライト」も、再編集版がプレミアムドラマで放送され、配信とは別の新たな視聴者を取り込むことに成功しました。

自主事業では、阿部寛主演の映画「ショウタイムセブン」や大ヒット映画「岸辺露伴は動かない」第2弾の「懺悔室」の制作業務も行いました。「光る君へ 大河ドラマ館」は滋賀県大津市、福井県越前市、京都府宇治市の3館をオープン。平安時代という大河ドラマとしてはなじみの薄い時代設定にもかかわらず、各館とも順調に来場者を迎え、特に大津市では28万人を超える方が訪れ、ドラマのご当地を盛り上げました。

オープンセットの撮影施設「ワープステーション江戸」は、NHK関連で「光る君へ」をはじめ連続テレビ小説・BS時代劇・特集ドラマなどの撮影を実施。そのほか外部への貸し出しでも目玉である市電を駆使した撮影が定期的に行われるなど、多方面での使用が順調に推移しました。

エンターテインメント部

定時番組では、総合テレビで「みんなのうた」「演芸図鑑」「ワルイコあつまれ」など、Eテレでは「日本の話芸」「わらたまドッカ〜ン」「診察中！こどもネタクリニック」「古典芸能への招待」「トゥースでチャックな英会話」などを制作。BSでは「新・BS日本のうた」「The Covers」「クラシック倶楽部」「プレミアムシアター」などを制作しました。音声波ではクラシックからジャズ、ポピュラー、バラエティーまで、多様なジャンルでラジオファンのニーズに応える番組を制作しました。特集番組では、総合「ひむバス！」、BS「歌える！J-POP」シリーズや「六角精児の呑み鉄本線・日本旅」「鉄オタ選手権」「映画音楽はすばらしい！」など、多くのファンを持つ人気番組を制作しました。

また2025年の「放送100年」に当たって、過去の映像資産を有効活用する取り組みとして、「みんなのベスト紅白」や「伝説のコンサート」などの特集番組も制作して、視聴者から大きな反響をいただきました。

自主事業では、「古典芸能を未来へ」「呑み鉄本線・日本旅スペシャル・ライブ&トーク」のイベント主催や、「古澤巖×ベルリンフィル」などのイベント制作等を実施しました。さらに「NHK紅白歌合戦」への演出・PR協力などで、NHKグループの一員としての使命を果たす事業も行いました。

語版展開部

海外ドラマでは、総合テレビ「ファンタスティック5 情熱のパラアスリート」、Eテレ「デイナの恐竜図鑑4」、BSP4K・BS「青春ウォルダム 呪われた王宮」などの日本語吹き替え版を制作したほか、ロシアによる侵攻後のウクライナを舞台にした「ドライブ in ウクライナ 彼女は『告白』を乗せて走る」の日本語字幕版を制作しBSで放送されました。また、BSP4K・BS8K「マキシマ オランダ・プリンセス物語」「ルートヴィヒ 謎は解くためにある」など多くの海外ドラマの日本語版を制作し、NHKの4K・8K放送の充実に貢献しました。

海外ドキュメンタリーでは、「BS世界のドキュメンタリー」やEテレ「地球ドラマチック」の日本語版などを制作し、海外の最新的话题を視聴者にお届けしています。

映画関連では、BSプレミアムシネマで放送する映画の日本語字幕版制作のほか、総合テレビ放送のアニメ「美女と野獣」やBSP4K放送のフランス映画「大人は判ってくれない」など、多数の映画を放送用にフォーマット編集しました。

さらに「世界ふれあい街歩き」の英語版「Somewhere Street」を制作し、NHKワールドJAPANで海外配信されたほか、NHKの多岐にわたる番組の副音声解説放送を約2,0

00本制作しました。

アニメ事業部

総合テレビでは「鳥は主を選ばない」「チ。—地球の運動について—」を放送。骨太なストーリーや質の高いアニメーションで、高い評価を得ました。

Eテレでは「科学×冒険サバイバル!」を放送。人気の科学漫画シリーズが原作のアニメで、科学や防災といった教育的な要素をしっかりと伝えながら、エンターテインメントとして楽しんでいただける作品として好評を博しました。

Eテレ平日に放送した「忍たま乱太郎」は放送開始から32年目を迎え、「おじゃる丸」では大河ドラマ「光る君へ」とのコラボ展開を行い、特番の放送や広報での連動等で話題となりました。

さらに「おしりたんてい」「ふしぎ駄菓子屋 銭天堂」「ギガントサウルス」「きかんしゃトーマス」「はたらく細胞!!」「スキップとローファー」等を放送しました。

また自主事業として、映画「劇場版 忍たま乱太郎 ドクタケ忍者隊 最強の軍師」が興収30億円を超えるヒットとなりました。

デジタルサービス事業部

Webサイト制作、SNS展開、さらにデータ放送などのデジタルテレビ向けサービスや動画配信など幅広い業務に対応できる高い制作力を活かし、NHKのデジタル発信を支えました。特に2025年秋に予定されているNHKのインターネット必須業務化を見据え、基幹サイトの必須化対応をはじめ、戦略サポートからウェブアクセシビリティの向上、さらには番組サイト移行などのサポートを行ったほか、2024年夏のパリオリンピック・パラリンピックではシステムの開発、メンテナンス等を手がけました。また、NHKプラスでは24時間365日の運用監視業務を担当。デジタルテレビ向けには、連続テレビ小説、大河ドラマ、紅白歌合戦などのデータ放送・ハイブリッドキャスト等の開発・運用を実施しました。

自主事業としては、手話CGサービスに取り組んでおり、開発したデジタルヒューマン「KIKI」が東京2025デフリンピック応援アンバサダーに採用されるなど、広く社会に貢献する事業を進めています。また、大学に向けた番組配信事業のシステム開発・サポートなども担っています。そのほか将来の展開に向けて、生成AIを活用したサービスの開発などにも取り組んでいます。

(2) <イベント事業・ソフト制作>

イベント事業部

全国の高専生たちがAIを使った事業案を創出して競い合うディープラーニングコンテストは、これまで制作業務のみを受託していましたが、そのクオリティが高く評価され、2025年度には主催を担うことも決定しています。

力を入れているパラスポーツ普及事業では、2025年に開かれるデフリンピックの、1年前イベントを東京都から受託しました。グループ会社のNHKグローバルメディアサービスと連携して実施しましたが、多くの観客が来場し、顧客満足度を含めて大成功したイベントとなりました。

ライブエンターテインメントでは、人気の「忍たま乱太郎」について、これまでのミュージカル中心の舞台に加えて、スピンオフのストーリーによる舞台やストレートプレイなど、さらにバリエーションを増やして実施。ファン拡大と満足度向上の双方を達成することができました。

過去の映像を4Kクオリティに転換して映像遺産の魅力を再発見するNEPビデオレストアサービスを活用した事業については、2024年度初めてNHKオンデマンドから海外ドラマシリーズなどでの受注を得ることができたほか、外部のレコード会社やアニメ制作会社からの新規の委託も獲得することができました。

(3) <地域での番組制作、事業>

近畿総支社・四国支社

近畿総支社では、全国放送の「探検ファクトリー」「歴史探偵」「きょうの料理」「すてきにハンドメイド」「芸能きわみ堂」「日本の話芸」、国際放送の「Core Kyoto」、地域放送の「ぐるっと関西おひるまえ」「ええとこ」などを制作。四国支社では全国放送の「夏井いつきのよみ旅!」、地域放送の「ギュッと!四国」「ノルノルミシル!」などを制作しました。

さらに特集番組として、近畿総支社では全国放送の「超体感!新春開運 伊勢 お参り旅」、地域放送の「鉄オタ選手権」「マニアさんと歩く関西」「クイズジェネレーション万博」のほか、阪神・淡路大震災30年関連で関西民放NHK連携プロジェクト等の番組を制作。四国支社では地域放送の「ギュッと!四国スペシャル~うまいもん大集合!極上レシピ~」などを制作しました。

NHKからの受託事業は、近畿と四国の公開番組や「Nコン」、派遣イベントなどを実施。近畿総支社では、「大河ドラマ『光る君へ』パブリックビューイング&トークショー」を京都市、宇治市、大津市の三つの自治体と協力して運営したほか、ファミリー世代がターゲットの複合イベント「NHKファミリーひろば」を茨木市で実施しました。また防災関連では、

小学校高学年を対象にした「NHK防災サバイバル」のコンテンツを刷新し、大阪市内で実施しました。四国支社では「大河ドラマ『べらぼう』PV&トークショー」や「スペシャルドラマ『坂の上の雲』再放送記念トークセッション」を制作したほか、「みんなの四国文化祭」「デジタル昆虫展AR」等を実施運営しました。

展覧会事業では、大阪あべのハルカス美術館で「円空一旅して、彫って、祈って―」「広重 一摺(すり)の極(きわみ)―」、奈良国立博物館で「海 KŪKAI―密教のルーツとマンダラ世界」の3つのNHK共同事業を実施し、いずれも想定を大きく上回る入場者を獲得しました。

自主事業では、天皇・皇后両陛下が出席される、大分県での「全国豊かな海づくり大会」や、岐阜県での「国民文化祭」「全国障害者芸術文化祭」を元請けとして実施運営し、自治体や関係各所から高い評価を得ることができました。また、「未来の下水道ブース(コンテンツ制作)」「阪神・淡路大震災とひょうご21世紀研究機構の20年映像制作」「中山ワンダフルフェスタ24」などを受託し制作しました。

近畿総支社が管理・運営を行っているNHK大阪ホールは、安全・安心を第一に努め、予定されていた公演等を順調に開催することができました。

中部支社

番組では、夕方のニュース番組で多数の企画を担当し、ほぼ毎日NEP制作のコンテンツを放送することができました。お昼前の情報番組のリニューアルでは、中部管内のNHK各局との連携を深め、地域密着のコンテンツを「〇〇市ウイーク」と銘打って年20シリーズ以上放送しました。北陸向けの25分番組も年9本制作し、北陸3県すべてで視聴率・接触率が前年よりアップするなど、NHK名古屋放送局の北陸支援に大きく貢献しました。

NHKが最重視する防災・減災に関しては、夕方のニュース番組で、南海トラフ巨大地震に備える企画を立ち上げたほか、放送と連動したファミリー向け防災イベントを、被災が予想される地域の大型商業施設で実施しました。能登半島地震関連では、継続的に被災地を支援する番組を制作したほか、復興の行方を問う報道番組を海外と全国に発信しました。

イベントでは、自主事業で福井県若狭町町制20周年事業や愛知県知立市のSDGs啓発イベント、大河ドラマ「光る君へ」「べらぼう」関連事業を、地域のニーズに応える内容で受注・制作しました。企画美術展は、「人間国宝 鈴木 藏の志野展」(4会場)と「童話作家・村上康成の世界展」(2会場)といった、いずれも岐阜県にゆかりの作家の展示制作で地域発の文化事業としても発信することができました。NHKからの受託事業では、昭和東南海地震から80年の節目での防災イベントを実施。「名古屋局放送100年」のキックオフ事業

となりました。

またデジタルでは、データ情報アーカイブス管理業務でアーカイブス活用の基礎を支える業務を担当しました。

中国支社

金曜夜間の地域番組「コネクト」では、広島放送局の小野文恵アナウンサーが中国地方の各地の魅力を伝える「ブラフミエ」や、被爆者たちが俳句に込めた思いを見つめた「夏井いつき “原爆俳句”を訪ねて」、2025年度後期の連続テレビ小説「ばけばけ」を先取りした「小泉八雲とセツ “怪談”をめぐる旅」、岡山県笠岡諸島にあるフリースクールの子もたちに密着した「小さくて広い島」等を放送しました。特集番組では、「みんなのカープ 県民大会議」は7回目、「山下健二郎 にとっておき絶景旅」は5回目の放送となり、広島局の看板番組として定着しています。平日お昼前の情報番組「ひるまえ直送便」では生放送で中国地方の魅力を伝えたほか、被爆80年や能登地震などジャーナルなテーマも取り上げました。また、かつてニュースや番組で取り上げられた話題の“今”を訪ねるアーカイブス活用番組「あの時を取材中」を制作し、広島局以外の中国地方各局の番組として放送しました。

イベントでは、毎年多くの観客を集めるひろしまフラワーフェスティバルに合わせて広島放送局で「NHKシクラメンパーク」を実施したほか、「光る君へ」「NHKドラマフェス」のトークショーなどを実施しました。また被爆者へのロングインタビューを元にモニターに映る被爆者との対話体験を得られる「被爆応答装置」の制作を新たに広島市から受託し、制作を進めています。

九州支社

地域情報番組「はっけんTV」「はっけんラジオ」を平日に生放送し、アーカイブスを活用した特集番組「映像タイムマシーン九州沖縄」を新たに2本制作しました。また、人気俳優が九州各地を小型の折り畳み自転車で旅する「ミニベロ出会い旅」、ミスコンテスト世界一に輝き、ハリウッドで俳優・スタントとして活躍した吉松育美さんがふるさと九州を旅する「ミューズトラベラー」を、2本ずつ制作。魚離れを食い止め漁業関係者を応援する、4年目を迎えた「ウオカツ!」、高校のユニークな部活を紹介する「キミだけ応援団」も制作して、九州沖縄地方の魅力を存分に伝えました。

このほか、大分放送局の金曜夜間の地域番組「ぶんぶん探検隊」や、宮崎県北キャンペーンの生中継パート、福岡放送局アナウンスのラジオドラマ「放送100年記念 アナウンサーたちの戦争」の制作にも参加し、地域放送の充実に貢献しました。

イベントでは、福岡局での公開音楽イベント「六本松サテライト」の運営を実施。また、連続テレビ小説「おむすび」と九州大学の学園祭「九大祭」がコラボした「おむすび×九大祭」のイベントや2025年度後期の連続テレビ小説「ばけばけ」関連イベント「小泉八雲を変えたKUMAMOTO」を熊本市で公開収録しました。自主事業では、「光る君へスペシャルトークショーおよび企画展示」を大宰府市からの委託で実施して、NHKのIPの地域での展開に尽力したほか、九州国立博物館20周年リニューアル事業や民間企業から受託した映像の修正、NHK財団が海外へ配信する「日本の世界遺産」（長崎と天草の潜伏キリシタン）の制作など、蓄積してきたコンテンツ制作のノウハウを多方面に還元しました。

東北支社

全国放送では、震災直後の地元住民の苦闘を描いた「新プロジェクトX 孤立集落へ 命の道をつなげ ～東日本大震災 6日間の闘い～」のほか、東北土着の音楽を訪ね歩く「ETV特集 俚謡山脈のDIGの細道」、夜泣きに悩む若いパパママの悩みを受け止める「ハートネットTV よなきごやへようこそ」、「釣りびと万歳 壮絶ファイト 巨大魚スペシャル」「新日本風土記 豪雪 八甲田」「英雄たちの選択 シリーズ 古墳の時代 (1)黄金の馬を育てよ～地方豪族から見たヤマト王権～」などの番組を制作しました。

地域放送では、ガラケーに眠る画像を掘り起こす特集番組「ママも昔はギャルだった～あなたのガラケー見せてください」やラジオの長時間生放送「よなきごやへようこそ」などの番組を制作しました。

イベントでは、公開生放送で東北管内にお届けしている番組「定禅寺しゃべり亭」を東北各地で5回実施したほか、さかなクンによるトークショーや幼児とその保護者を対象にした「キッズフェスティバル」などを実施しました。

北海道支社

全国放送では、「さわやか自然百景」「うまいっ!」「あさいち」「釣りびと万歳」「ニュースーン」「フロンティア」などの定時番組、国際放送では、「Wild Hokkaido!」「Train Cruise」を制作しました。地域放送では、定時番組の「おはよう北海道」「ひるナマ!北海道」「ほっとニュース北海道 ほっと中継」を、また道央・道北・道東・道南4つの地域から5日間にわたって地元の情報を伝える「エリア中継キャラバン」や、アーカイブス映像を活用した「あなたの町の映像アルバム」を制作しました。

イベントでは、「NHK全国音楽コンクール」の北海道7地区の地区大会と北海道ブロック大会を受託して制作。札幌放送会館で実施する地域戦略イベントとして、夏と冬の会館公

開、恐竜カムイサウルスの全身復元骨格など展示した「カムイサウルス春休み特別展」を実施し、多くの親子連れが訪れました。自主事業では、北海道十勝地方が舞台の連続テレビ小説「なつぞら」の出演者によるトークショーなどを実施しました。

(4) <映像ソフト販売>

映像ソフトの販売については、大河ドラマ「光る君へ」、連続テレビ小説「虎に翼」、「正直不動産2」「岸辺露伴 ルーヴルへ行く」「舟を編む ～私、辞書つくります～」などで、成果を上げることができました。ほかにドラマでは、連続テレビ小説「ブギウギ」、「大奥 Season2」「デフ・ヴォイス」「あきない世傳 金と銀」「アストリッドとラファエル 文書系の事件録」「Shrink－精神科医ヨワイー」「団地のふたり」などを販売し、好評を得ることができました。ドラマ以外では、「ごろごろパンダ日記」「笑わない数学2」「恐竜超伝説2 劇場版ダーウィンが来た！」などを販売しています。

グループ会社のNHKエデュケーショナルの協力によりリリースしたタイトルとしては「おかあさんといっしょ」の「最新ソングブック むしむしフェスティバル」「ファミリーコンサート お弁当ラブソディー」「ファミリーコンサート うたの図書館」、「いないいないばあっ！」の「じゃじゃじゃ ジャーン！」が好調でした。

NHKのアーカイブス映像からは、「八代亜紀 プレミア歌唱集」「坂本龍一コンサート」「桂枝雀NHK特選映像集～爆笑王の世界～」などを商品化。またこども向けの「図鑑 MOVE」では「動物 新訂二版」「植物 新訂版」「はじめてのずかん のりもの」「恐竜 新訂二版」の4作を新たにラインナップに加えました。さらに通販専用で「六角精児の呑み鉄本線・日本旅2」「秋田大曲 全国花火競技大会」「星空絶景2 知られざる夜の世界」「アニメ アリス探偵局」などを販売。再販売を含めて新たに60タイトルをリリースしました。

(5) <番組提供>

放送事業者への番組提供

チャンネル銀河、AXN、ファミリー劇場、BS11、歌謡ポップスチャンネルなど25チャンネルに対して、大河ドラマ3作品、連続テレビ小説5作品をはじめ、アニメ、音楽番組、韓国・中国・欧米のミステリードラマなど、計156タイトルを提供しました。ケーブルテレビ事業者には、29局に対して連続テレビ小説「おしん」「マッサン」「花子とアン」など60タイトルを提供しました。

VOD事業者への番組提供

Amazonプライム、U-NEXT、ドコモ・アニメストア、Hulu、FOD、アニメタイムズなど、20事業者に対して、アニメ番組や幼児番組（DVD原盤）、韓国・中国のドラマなど、海外番組を含めて463タイトルを提供しました。

素材提供事業

素材提供ホームページ上に10月よりチャットボットを導入。よくある質問や疑問については、夜間・休日でも自動回答プログラムでお応えできるようにしました。アクセス数も順調に推移しており、クライアントの利便性向上を図ることができました。

また、(福)NHK厚生文化事業団、(公財)放送番組センター、(福)聴力障害者情報文化センターの3公益団体への番組提供も例年どおり実施。NHK番組の利活用に貢献しています。

一般事業者提供業務

NHK展開センターからの委託により「一般事業者へのNHK番組のまるごと提供」に関する窓口対応、権利処理、納品業務を行い、一般企業からのNHK番組の社内研修等での利用に貢献しました。

(6) <キャラクタービジネス>

ドラマの展開では、大河ドラマ「光る君へ」の書籍へのライセンスが全14種、総発行部数は71万部となり、連続テレビ小説「虎に翼」では完全保存版シナリオ集BOXセットが完売するなど、過去数年間で最高の売上を達成することができました。2025年の大河ドラマ「べらぼう」も現在すでに8種の書籍が発行され、安定した刊行部数をキープし、商品化も3月末までに計110件の申請がありました。

アニメでは、興行収入30億円を超えた「劇場版 忍たま乱太郎 ドクタケ忍者隊 最強の軍師」のヒットを受け、商品化、キャンペーンなど劇場版著作権だけでなく、アニメ版の展開が拡大。ミュージカルの公演も増え、IP全体で過去最高の売上を更新し、ブランディングを大きく向上させることができました。「魔入りました！入間くん」では、2025年度の第4シリーズ制作発表を行った初の声優イベントが大盛況となり、遊戯施設とのコラボなど大型の施策を複数実施することができました。様々な問い合わせや企画の確定も相次いでおり、「忍たま乱太郎」に続く主要なアニメIPとして育てていく計画です。好調が継続している「おさるのジョージ」は、7月に初の常設カフェを東京スカイツリーにオープン。12

月に初の遊具施設を奈良にオープンしました。

幼児番組の展開では、「いないいないばあっ！」の新キャラクター「ぼうぼ」や「おかあさんといっしょ」の「あーぷん」の人気が高く、初の試みである「歌のおにいさん、おねえさん」版權の商品も堅調に販売しています。その他、レトロブームを受けて「おじゃる丸」や「ニャッキ」の商品も好調でした。

(7) <権利ビジネス>

海外の番組については、欧米ドラマ「アストリッドとラファエル 文書係の事件録」「スーパーヒーローアカデミー」、「英国スキャンダル 王室を揺るがしたインタビュー」、中国ドラマ「三国志 秘密の皇帝」、韓国ドラマ「朝鮮弁護士 カン・ハンス 誓いの法典」などがNHKで放送されました。また、中国ドラマ「ユン・シャン伝」「鳳凰の飛翔」、欧米ドラマ「アストリッドとラファエル4」「エクスプレス誘拐特別捜査チーム」、韓国ドラマ「イ・サン」「トンイ」等を配信・放送で展開。ドキュメンタリーでは「ABBA 栄光の陰で」「ハリス対トランプ」「ロイヤルと恋に落ちて」、ライフスタイルに関連する番組では、「ソーイング・ビー」「ブリティッシュ・ベイクオフ」が放送されました。クラシック音楽番組では、バイロイト音楽祭 楽劇「トリスタンとイゾルデ」、英国ロイヤル・バレエ「シンデレラ」などが放送されました。

海外番組販売では、「正直不動産2・ミネルヴァスペシャル」「Shrink－精神科医ヨワイー」「宙わたる教室」「東京サラダボウル」などがグローバル配信され、そのほか、連続テレビ小説「虎に翼」や大河ドラマ「光る君へ」「鎌倉殿の13人」なども販売されました。アニメでは「魔入りました！入間くん」「カードキャプターさくら」、ドキュメンタリーでは「宮崎駿と青サギと『君たちはどう生きるか』への道」「ゴッドハンド あなたの知らない“復元師”の世界」などが販売されたほか、自然科学番組が人気を集めました。

(8) <NOD事業>

NHKオンデマンド（NOD）受託事業

NHKから受託したNOD配信番組の権利処理・権料支払いから原盤・メタデータ制作、配信、編成、広報までの一連の業務を円滑に実施するとともに、無料配信や即日配信など多様な配信サービスをサポートしました。NODの視聴は昨年度を上回り、連続テレビ小説「虎に翼」や大河ドラマ「光る君へ」などの新作がよく見られました。また昨年度後半から視聴者層の拡大を目指して、NHK杯フィギュア、カーリング日本選手権などのスポーツコンテ

ンツや、アニメ「忍たま乱太郎」など、従来に増して多彩なジャンルのコンテンツを配信し、好評を得ました。さらに大河ドラマ「義経」「3か月でマスターする世界史」など過去に話題となった番組を新たに権利処理して配信する「蔵出し番組」も多くの視聴を獲得しました。

また、NODホームページのユーザーインターフェースの改善や、4K番組が視聴できるAndroidTV向けアプリの開発サポートも行いました。

3号業務（VOD提供）受託事業等

国内の配信事業者向けに番組を提供するVOD事業については、Huluなどへの番組提供のための権利処理と原盤制作を実施しました。また、NHKデジタルセンターの依頼によりNHKプラスの原盤制作、TVer提供番組の原盤制作も行いました。

（9）＜業務システム改革への取り組み＞

業務改革プロジェクト

社内システムの刷新を目的に2020年に立ち上げられた業務改革プロジェクトは、ERP会計、管理会計、著作権、事業管理、電子契約などの業務領域で、2022年5月以降に新システムを順次リリースしてきました。2024年度も統制上の観点や、利便性向上の観点からの修正を継続して実施。用紙による手続きが多い自動車運転者届や自動車使用届などの電子化を行い、紙削減等を目的とした社内申請の電子化推進にも継続して取り組みました。

（10）＜業務支援＞

アーカイブス事業

NHK放送番組の映像・音声素材・データを登録・保存する業務、保存されているコンテンツの活用を支援する業務を継続して行いました。開始3年目のMCG素材再利用アドバイス業務では、過去最多の年間1,200件を超える問合せに対応。調査にあたる社員・スタッフの熟練度も上がり、アーカイブス情報システムに記載されたメタデータのさまざまな修正を進めることができました。また、映像の出処が判明するといった有用な情報については、アーカイブスの記録に追記するなど、データベースの信頼度を高め、検索ユーザーに資する取り組みを重ねて行いました。

「フィルムの見える化」業務では、地域のニュースや番組素材を中心に約4,800のコンテンツのフィルムをファイル化し、業務用PCでその映像試写を可能にしました。これにより、地域関連のアーカイブス素材が放送100年関連事業や各地のニュース番組などで数

多く再利用されました。

アーカイブス未保存の番組テープを探し出して保存化する業務では、芸能・教養・科学など幅広い分野からテレビ番組673本、ラジオ番組756本、台本227冊の計1,656コンテンツを発掘、登録しました。またアーカイブス映像を活用して、大河ドラマ「光る君へ」とのコラボイベントや地域放送局との連携イベントを実施しました。

アーカイブスに保存された過去の膨大な番組や映像素材を活用した番組制作も行いました。新番組「時をかけるテレビ～今こそ見たい！この1本～」、「4Kプレミアムカフェ」、「よみがえる新日本紀行」に加えて、視聴者の提供による素材で復活させた「アニメーション紀行 マルコ・ポーロの冒険」や人形劇「プリンプリン物語」などを放送。貴重な映像資産の可能性を広げるとともに、「映像の世紀バタフライエフェクト」の映像リサーチ・権利確保業務も行うなどアーカイブス番組の存在感を高めました。

著作権・権料支払業務

NHK知財センター著作権・契約部との連携のもと、各種事業展開に関わる権利処理についての情報集約、管理、相談への対応および映像コンテンツ権利処理機構（ARMA）、JASRACなどの権利者団体等との調整を行い、円滑な事業展開を支援しました。また、ビデオグラム、NOD・VOD、CS・BS、CATV、航空機内上映への提供等、番組二次展開に関わる権利者への権料支払業務、NHKからの制作受託番組の放送料支払いの審査業務など、権利関係業務に幅広く対応しました。また、知財センター著作権・契約部からの委託により、インターネットに無断で投稿された動画の削除を当該サイト運営者に依頼するなど番組の不正利用への対応業務を行い、加えて同センターから国際契約作成業務を受託しました。

権利確保サポート業務

NHK知財センター著作権・契約部からの委託により、「新プロジェクトX～挑戦者たち～」 「プロフェッショナル 仕事の流儀」などの定時番組、大河ドラマ「光る君へ」「べらぼう」、連続テレビ小説「虎に翼」「おむすび」、夜ドラ「VRおじさんの初恋」などのドラマについて、制作部門と連携して放送、配信、海外発信などの権利を確保し、併せて権利情報データ作成も行いました。さらにBS番組「フロンティア」では、カットごとの権利情報をアーカイブスシステムに入力。また「常時同時配信（NHKプラス）サポート業務」として制作現場からの権利処理に関する相談窓口業務を受託し、各種問い合わせに対応しました。

NHK第1制作センターからは、一部の学校放送番組についての再放送や展開のための権

利情報整備業務に加え、NHKがまなびについて発信している「NHKラーニング」で配信されるコンテンツの権利処理業務を受託し、権利者への支払い業務までを担当しました。

またNHKの国際放送局からはNHKワールドプレミアム提供における権利確認業務を、展開センターからは放送番組センター、聴力障害者情報文化センター、厚生文化事業団などへ無償で番組を提供する際に、権利情報を収集・整備する業務を受託しました。

自主事業としては、放送番組国際交流センター（JAMCO）よりNHKや民放番組の海外への提供のための権利処理業務を受託しました。

(11) <新規事業等への取り組み>

イノベーション戦略室

2024年度も引き続き、新規事業開発の開発に精力的に取り組みました。

日本のコンテンツ産業の持続的な発展に寄与することを目指した共同事業「クリエイティブコンプレックス」を、東京を拠点とする7社が参画する形で設立しました。

ユニバーサルサービスでは、手話CGのシステム開発を継続し、NHKグローバルメディアサービスと共同開発したデジタルヒューマンアバター「KIKI」が、東京2025デフリンピック応援アンバサダーや、東京国立博物館の展示ガイド役として活躍しました。

BtoCの事業については、NHK関連コンテンツのファンがグッズなどを購入したり、さまざまなグッズやイベントなどの情報をワンストップで得ることができるサイト「NHKグループモール」を運営しました。

また他の関連団体と共同で、社内向けビジネスコンテスト「未来投資会議2024」を企画・運営しました。

(12) <リスクマネジメント、コンプライアンス、情報セキュリティへの取り組み>

リスクマネジメントの維持・強化とコンプライアンス推進のため、リスクマネジメント委員会を計3回開催し、内部通報窓口の周知や、2024年度の活動方針、内部統制の整備状況、リスク点検活動などの審議・承認、リスク事例の報告などを行いました。

社内トラブルや相談等に迅速に対応し、NHKグループのリスクにつながるおそれのある事案については、適宜、NHKの所管部門と共有しました。

NEP独自の取り組みとして、年々充実させてきた業務プロセス図の作成を支援し、各部門とレビュー面談を行って、業務プロセスから抽出されたリスク評価について助言しました。

コンプライアンス推進強化月間には、個人情報漏えい防止などサイバーセキュリティの確

保をテーマに、社外講師による全社向け研修を行いました。NHKやNHKメディアホールディングスによるグループ研修にも参加したほか、各部門において様々なテーマで勉強会を実施しました。

ハラスメント防止の一環として前年度末に実施したパワーハラスメントの社内アンケートの結果をもとに、必要な研修を実施しました。

フリーランス法の施行にあわせて、関係各部と連携して社内向けの手引きやフリーランスの方向けのリーフレットを作成しました。

情報セキュリティへの取り組みとしては、4月にISMSの定期維持審査を受け、登録継続が承認されました。さらに、NHKおよびNHKメディアホールディングスと連携し標的型攻撃メール訓練やサポート詐欺訓練、事後研修を実施するなど、全社のITリテラシーの向上に努めました。

業務点検実施要領にのっとり、業務点検担当者が、5部門の業務点検を行いました。点検結果はその都度社長に報告したうえで監査役に手交するとともに、常勤役員会で報告しました。

法務・審査部

契約稟議の件数は年々増加傾向にあり、今期においても約6,000件について、精度の高い審査を維持しました。

本社・地域支社における下請法の遵守や業務委託の適正性確保の強化、合わせて11月に施行されたフリーランス法への対応については、NHKやNHKメディアホールディングスと連携して研修や勉強会を企画・実施し、日常的なコミュニケーションを通じて啓発・指導を行いました。

コンテンツ等のIP展開のための体制強化の一環として、部員それぞれのスキルを最大限発揮することのできる環境と配置を整えて、現業部門と管理部門に対するサポートの貢献度・満足度・安心度を向上させました。

展開企画部

メディアミックスは、連続テレビ小説「虎に翼」、「正直不動産」シリーズ、「忍たま乱太郎」「科学×冒険サバイバル」などのドラマやアニメが順調に推移しています。

コンテンツ展開センターの共通業務では、問合せの対応について引き続き個人情報の漏えい等のリスクに十分注意しながら迅速な対応を行っています。

DX推進部

基幹システムであるS I N G / S A Pは、著作権領域の改修やタレントパレット、ジョブカンへの対応などの改修を加えて、利便性の向上に努めました。

不正アクセスや情報漏えいを防ぐため、共有フォルダやメール、Teamsのアクセス権の棚卸しを全社で実施。また、共有サーバーの老朽化への対応として、共有サーバー内のファイルのBOXへの移行も行いました。

また、社給PCに実装するWindows10は2024年秋にサポートが終了するため、全てのPCのWindows11へのアップデートを2024年度内に完了しました。

そして、昨年度に続き無線LAN化など地方支社のIT環境向上を図りました。

(13) <分野別売上高>

区 分	第35期 (2023.4.1~2024.3.31)		第36期 (2024.4.1~2025.3.31)		対前年度増減	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	増減率
放送番組制作	42,773,603	67.4%	39,621,783	64.1%	△3,151,820	△7.4%
映像ソフト販売	2,206,819	3.5%	1,756,867	2.8%	△449,952	△20.4%
イベント・ソフト制作	7,624,344	12.0%	7,943,809	12.8%	319,465	4.2%
番組提供・デジタル制作	3,347,614	5.3%	3,994,428	6.5%	646,814	19.3%
キャラクター事業	808,027	1.3%	766,968	1.2%	△41,059	△5.1%
権利ビジネス	5,229,916	8.2%	6,700,194	10.8%	1,470,278	28.1%
N O D 事業	900,050	1.4%	1,073,989	1.7%	173,939	19.3%
受託映像国際放送	558,718	0.9%	—	—	△558,718	△100.0%
合 計	63,449,091	100.0%	61,858,038	100.0%	△1,591,053	△2.5%

※構成比・増減率は小数点第二位以下を四捨五入して表示

(参考) 2024年度 コンクール等受賞一覧

コンクール名	部門/賞	番組および賞品名
ルミエール・ジャパン・アワード 2024	8K部門 グランプリ	ディープオーシャンⅡ 「アッテンボローのディープオーシャン紅海 神秘の魔境」
ルミエール・ジャパン・アワード 2024	4K 部門 優秀作品賞	特集ドラマ「広重ぶるう」
第61回ギャラクシー賞	テレビ部門 大賞	連続ドラマW「フェンス」
第61回ギャラクシー賞	テレビ部門 選奨	ETV 特集「“玉砕”の島を生きて(2) ～サイパン島 語られなかった真実～」
2024年ギャラクシー賞	テレビ部門 7月度月間賞	ドラマ 10「燕は戻ってこない」
ギャラクシー賞 8月度月間賞	テレビ部門 8月度月間賞	NJHK スペシャル 「“一億特攻”への道～隊員 4000 人 生と死の記録～」
ギャラクシー賞 12 月度月間賞	テレビ部門 12 月度月間賞	ドラマ 10「宙わたる教室」
ギャラクシー賞 2 月度月間賞	テレビ部門 2 月度月間賞	特集ドラマ「憶えのない殺人」
ギャラクシー賞 2 月度月間賞	テレビ部門 2 月度月間賞	ドラマ10「東京サラダボウル」
第62回ギャラクシー賞上期	テレビ部門 上期入賞	NHKスペシャル 「“一億特攻”への道 ～隊員 4000 人 生と死の記録～」
第50回放送文化基金賞	ドラマ部門 最優秀賞	NHKスペシャル 「シリーズ“宗教 2 世” 神の子はつぶやく」
第40回ATP賞テレビグランプリ	ドキュメンタリー部門 最優秀賞	「新・爆走風塵 中国・トラックドライバー 生き残りを賭けて」
第40回ATP賞テレビグランプリ	ドキュメンタリー部門 優秀賞	ファミリーヒストリー 草刈正雄～初めて知る米兵の父 97 歳伯母が語る真実とは～ 草刈正雄特別編～アメリカへ 決意の旅路～
第40回ATP賞テレビグランプリ	ドラマ部門 優秀賞	連続ドラマW「フェンス」
第40回ATP賞テレビグランプリ	ドキュメンタリー部門 奨励賞	NHKスペシャル 「ひとりぼっちの“スパイ・イルカ”」
第40回ATP賞テレビグランプリ	ドラマ部門 奨励賞	プレミアムドラマ 「家族だから愛したんじゃない、愛したのが家族だった」

ATP上方番組大賞 第12回	番組部門 グランプリおよび優秀賞	「せーの！で編集してみたら」
第121回ザテレビジョンドラマ アカデミー賞	監督賞	「家族だから愛したんじゃないくて、愛したのが家族だった」 (大九 明子氏)
映文連アワード 2024	ソーシャル部門 準グランプリ(優秀作品賞)	NHK WORLD「Time and Tide The Floating World -First Contact-」
映文連アワード 2024	ソーシャル・コミュニケーション部門 部門優秀賞	「江戸川区魔法の文学館(角野栄子児童文学館) 館内展示映像」
映文連アワード2024 第18回	最優秀作品賞 (グランプリ)	名盤ドキュメント キャンディーズ『年下の男の子』～彼女たちのJ ポップ革命～
映文連アワード2024 第18回	優秀作品賞 (準グランプリ)	Time and Tide The Floating World -First Contact-
東京ドラマアウォード 2024	作品賞 単発ドラマ部門グランプリ	「デフ・ヴォイス 法廷の手話通訳士」
東京ドラマアウォード 2024	連続ドラマ部門 優秀賞	ドラマ10「燕は戻ってこない」
Media is Hope AWARD	Media is Hope AWARD 殿堂入り	堅達 京子
第55回 科学放送高柳賞	優秀賞	NHKスペシャル 「映像記録 関東大震災 帝都壊滅の三日間 前編・後編」
令和6年度(第75回)芸術選 奨	放送部門 芸術選奨 文部科学大臣賞新人賞	大島隆之 NHKスペシャル「“一億特攻”への道 ～隊員4000人 生と死の記録～」の成果に対して
放送人グランプリ	放送人グランプリ 優秀賞	連続ドラマW「フェンス」
キネコ国際映画祭	ティーンズ長編部門 グランプリ	創作テレビドラマ大賞「ケの日のケケケ」
放送人グランプリ	放送人グランプリ 大山勝美賞	家富 未央
貧困ジャーナリズム大賞 2024	貧困ジャーナリズム 特別賞	ドラマ「むこう岸」

【国外コンクール】

コンクール名	部門/賞	番組および賞品名
Green Screen	Best Score ベスト音楽賞	ワイルドライフ SP 国際共同制作 「流水からの贈り物」
ニューヨーク・フェスティバル 2024	ドキュメンタリー部門 (Nature&Wild Life) 金賞	NHKスペシャル「ヒマラヤ“悪魔の谷”」
ニューヨーク・フェスティバル 2024	ドキュメンタリー部門 Science & Technology 金賞	NHKスペシャル 「超進化論 第1集 植物からのメッセージ」
ニューヨーク・フェスティバル 2024	ドキュメンタリー部門 (Nature&Wild Life) 金賞	ワイルドライフ SP 国際共同制作 「流水からの贈り物」
ニューヨーク・フェスティバル 2024	Documentary History&Society 部門 大賞/金賞	NHKスペシャル「関東大震災」
ニューヨーク・フェスティバル 2024	Entertainment Special 部門 銀賞	「作りたい女と食べたい女」
ニューヨーク・フェスティバル 2024	ドキュメンタリー部門 (human Concerns) 銀賞	NHKスペシャル 「わが子を手放した日 中国“一人っ子政策”のその後」
2024 コンテスツアジア	Best Factual Programme Made in Asia for Multiple Asian and/or International Markets 銀賞	ワイルドライフ SP 国際共同制作 「流水からの贈り物」
2024 ベネチア国際テレビ賞	Best of Technology and Innovation Nominee	国際共同制作 「アッテンボローの ディープオーシャン 紅海 神秘の魔境」
ベネチアテレビ賞(Venice TV Award)	テクノロジー/イノベーション部門 最優秀賞	NHKスペシャル「関東大震災」
ベネチアテレビ賞(Venice TV Award)	ファイナリスト	「デフ・ヴォイス 法廷の手話通訳士」
2024 ワールドメディアフェス ティバル	ドキュメンタリー部門 自然・野生生物部門 金賞	ワイルドライフ SP 国際共同制作 「流水からの贈り物」
ワールドメディアフェスティバ ル	ENTERTAINMENT: Mini-Series 部門 銀賞	「家族だから愛したんじゃない、 愛したのが家族だった」
MIPCOM CANNES Diversify TV Awards	Disability 部門 ファイナリスト	「デフ・ヴォイス 法廷の手話通訳士」
国際エミー賞	テレビ映画/ミニシリーズ部門 ノミネー選出	「デフ・ヴォイス 法廷の手話通訳士」

ASIAN ACADEMY CREATIVE AWARDS	単発ドラマ・テレビ映画・テレビ用ア ンソロジー・エピソード部門 アジアン・アカデミー・クリエイティブ・アワーズ賞	「デフ・ヴォイス 法廷の手話通訳士」
Asian Academy Creative Awards 2024	Best Documentary History 部門 Grand Final Winners	NHKスペシャル「映像記録 関東大震災 帝都壊滅の三日間 前編・後編」
Asian Academy Creative Awards 2024	Best Music Or Dance Programme Grand Final Winners	「ミラドール 絶景を聴く」
ABU 賞	TV/SCREEN ENTERTAINMENT WINNER	「ミラドール 絶景を聴く」

3. 対処すべき課題

2024年度は、前年度後期に始まった受信料値下げやBS波削減を受けたNHK委託の減少が本格化し、前年度比でNHK取引が減少。自主事業でもDVD販売や映像ソフト制作などの減少を受け、前年度比減収となり、継続する円安や物価高騰も相まって、当社を取り巻く経営環境は依然として厳しい状況が継続しています。

その一方で、「2024-2026年度 中期経営計画」に掲げた「制作と展開の両輪の進化」は確実に成果を挙げつつあります。NHKの新たなフラッグシップ確立を目指して取り組んできた番組開発では、当初の目標を大きく上回る40本の番組が採択されました。また、展開の強化を主な目的として2度にわたる組織改正を実施し、全社の部門が今まで以上に連携して新しい事業の獲得・開拓に取り組んだことで、劇場版 忍たま乱太郎の成功に代表されるようなIP展開事業の強化を進め、国や自治体などからの公募事業の落札を着実に増やすなど、今後につながる数多くの事業や顧客・協力者との関係の土台を構築することができました。

NHKエンタープライズはこうした取り組みを2025年度もさらに強化し加速していきます。展開の起点となる、世界にも通用する魅力的なコンテンツを生み出すこと。NEP自らもコンテンツのIP（知的財産）を確保するとともに、NHKグループのIPを幅広く展開してNHKに財政貢献すること。この2つを全社一丸となって推し進めていきます。

また2025年度は、放送100年とNHKのインターネット業務の必須化、大阪・関西万博、東京デフリンピック、さらには東日本大震災15年など、大きな節目や国民行事が数多く予定されています。これらに上質なコンテンツを届けてNHKを支え、社会に貢献することは当社の重要な責務です。

事業や業務の遂行に当たっては、コンプライアンスの一層の強化を図るとともに、人権の尊重、ダイバーシティ&インクルージョン、SDGsの達成といった多様性を尊重す

る持続可能な経営を全社で進めていきます。また、社員はもちろんともに働くNHKグループのメンバーや国内外の制作者・事業担当者のやる気とクリエイティブを徹底して尊重し、NEPでの仕事に携わる一人一人にとって風通しがよく共感に満ちた組織を構築していきます。

4. 設備投資等の状況

当期の設備投資総額は2億9千9百万円で、内容は以下のとおりです。

(単位 百万円)

資産の種類	取得価額	備考
有形固定資産 建物・構築物	11	レイアウト変更工事
	6	LAN工事
	8	事務所移転工事その他
有形固定資産 工具器具備品	7	収納庫、モバイルロッカー
	6	編集用大型ハードディスク
	25	パソコン、什器、その他
無形固定資産 ソフトウェア	148	新基幹システム
	83	MAMシステム改修、その他
計	299	

5. 資金調達の状況

前記の設備投資の資金は、自己資金で充当しています。

6. 事業譲渡・吸収分割または新設分割の状況

該当事項はありません。

7. 事業譲受の状況

該当事項はありません。

8. 他の会社の株式その他の持ち分または新株予約権等の取得の状況

該当事項はありません。

9. 財産および損益の状況の推移

区 分	第 33 期 (2022 年 3 月期)	第 34 期 (2023 年 3 月期)	第 35 期 (2024 年 3 月期)	第 36 期 (2025 年 3 月期)
売 上 高	62,026,907	68,052,979	63,449,091	61,858,038
営 業 利 益	1,985,077	4,038,167	3,343,765	3,634,533
経 常 利 益	2,051,608	4,160,332	3,410,484	3,727,211
当 期 純 利 益	1,512,604	4,136,856	2,234,140	2,596,065
1 株 当 た り 当 期 純 利 益	238,459 円 11 銭	656,683 円 82 銭	367,457 円 34 銭	426,984 円 48 銭
総 資 産	37,070,312	38,512,470	36,359,009	38,508,778
純 資 産	19,283,697	20,952,534	20,447,920	20,809,602

10. 主要な事業内容

- (1) 放送番組の企画、制作、購入
- (2) 有線テレビジョン放送事業者への放送番組の頒布
- (3) 映像国際放送の実施に関連する業務
- (4) 放送番組に係るコンテンツ等の著作物の発行、頒布
- (5) 放送に関連した催し物や公共的な各種催し物の企画、実施

1 1. 主要な事業所等

本 社	東京都渋谷区神山町4番14号	第三共同ビル
近畿総支社	大阪府大阪市中央区谷町三丁目1-18	NS21ビル
四国支社	愛媛県松山市堀之内5	NHK松山放送局内
中部支社	愛知県名古屋市東区東桜一丁目13-3	NHK名古屋放送センタービル
中国支社	広島県広島市中区大手町二丁目11-10	NHK広島放送センタービル
九州支社	福岡県福岡市中央区六本松一丁目1-10	NHK福岡放送センタービル
東北支社	宮城県仙台市青葉区本町2丁目20番1号	NHK仙台放送局内
北海道支社	北海道札幌市中央区北一条西九丁目1-5	NHK札幌放送局内

NHKアーカイブス 埼玉県川口市上青木三丁目12-63

ワープステーション江戸 茨城県つくばみらい市南太田1176

1 2. 従業員の状況

	従業員	NHK退職者		増減	平均年齢
			NHK職員 (出向者)		
男	410名	130名	74名	△14名	52歳7ヵ月
女	204名	7名	25名	0名	47歳7ヵ月
計	614名	137名	99名	△14名	50歳11ヵ月

注：役員のほか、NHKなど外部への出向者は含みません。

1 3. 重要な親会社および子会社の状況

(1) 親会社の状況

当社の親会社は、株式会社NHKメディアホールディングスで、当社の株式6,080株を保有しています。これは当社の議決権の100%にあたります。なお、NHKメディアホールディングスは、NHKの子会社に当たることから、当社はNHKの放送法上の子会社です。

当社は、NHKからの委託による放送番組などの制作と購入、有線テレビジョン放送事業者への放送番組の頒布、映像国際放送の実施、NHKの放送番組に係るコンテンツ等の

著作物の発行と頒布、NHKの放送に関連した催し物や公共的な催し物の企画と実施、これらに関連する業務およびNHKが制作した番組の利用権の購入などを行っています。

(2) 重要な子会社の状況

該当事項はありません。

(3) 親会社等との間の取引に関する事項

当社では、NHKメディアホールディングスおよびNHKとの取引を行うにあたり、独立した第三者との間の取引と同等の条件であることを確認し、取締役会において当該取引について相当との判断を行いました。

14. 主要な借入先と借入額

該当事項はありません。

II. 会社の株式に関する事項

1. 発行可能株式総数 10,000 株
2. 発行済株式の総数 6,080 株
3. 期末株主数 1 名
4. 株 主

株 主 名	持 株 数	持株比率
株式会社NHKメディアホールディングス	6,080 株	100%

5. その他株式に関する重要な事項 該当事項はありません。

III. 会社役員に関する事項

1. 役員の地位、氏名、担当、兼職の状況 (2025年3月31日現在)

地 位	氏 名	担 当	他の法人の代表または重要な兼職の状況
代表取締役社長	有 吉 伸 人	全体統括 CRO	(株)NHKプロモーション 代表取締役社長
常務取締役	松 本 俊 博	CDXO イノベーション戦略統括 建築管理 (建設業経営管理業務責任者)	
常務取締役	佐 藤 高 彰	NHK取引統括 SDGs 統括	
取締役	水 野 直 樹	経営企画統括、CHRO NHKグループ支援	
取締役	木 村 功	地域統括 海外戦略統括 NHK取引統括補佐	
取締役	柴 田 裕 司	一般取引統括	
監査役	行 成 博 巳		
監査役 (社外)	海 野 正 一		(株)NHK文化センター 監査役 (非常勤)
監査役 (社外)	大 月 将 幸		弁護士・公認会計士
監査役 (非常勤)	高 橋 正 美		(株)NHKメディアホール ディングス監査役 (非常勤)

注1：2024年6月25日付で、木村功、柴田裕司が取締役に就任しました。同日付で岩堀政則、諏訪雄一が取締役を退任しました。

注2：監査役 行成博巳は、内部統制とリスクマネジメントに関する知見を有し、放送事業に高い見識を持っています。 監査役（社外）大月将幸は、弁護士・公認会計士の資格を有し、法務、財務および会計に関する相当程度の知見を有しています。 監査役（社外）海野正一は、内部統制に関する知見を有し、企業経営に高い見識を持っています。 非常勤監査役 高橋正美は、当社の親会社である（株）NHKメディアホールディングスの非常勤監査役を兼任しており、幅広い視点からの的確な監査を行っています。

2. 取締役・監査役の報酬総額

役員区分	報酬の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額		対象役員数
		定額部分	変動部分	
取締役 (社外役員を除く)	99,981千円	79,392千円	20,589千円	8人
監査役 (社外役員を除く)	18,960千円	18,960千円	—	2人
社外役員	14,835千円	14,835千円	—	2人

※ 使用人兼務取締役の使用人給与部分を含みます。

3. 社外役員に関する事項

社外監査役

社外監査役のうち、大月将幸監査役は当年度に8回開催された取締役会に8回出席、6回開催された監査役会に6回出席し、当社の業務執行における適正性確保の観点から提言をしています。

海野正一監査役は当年度中に8回開催された取締役会に8回出席、6回開催された監査役会に6回出席し、当社の業務執行における適正性確保の観点から提言をしています。

IV. 会計監査人の状況

1. 会計監査人の名称

EY新日本有限責任監査法人

2. 会計監査人の報酬等

公認会計士法第2条第1項の業務に関する報酬 29,800千円

注1：当社の監査役会は、前事業年度における監査計画と実績の比較を行い、監査時間および報酬額の推移を確認し、当事業年度の監査予定時間および報酬額の妥当性を検討した結果、会計監査人の報酬について、会社法第399条第1項および第2項の規定による同意を行っています。

3. 会計監査人の非監査業務の内容

該当事項はありません。

4. 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

会社法第340条第1項各号に掲げられている事由およびこれに準ずる事由等を会計監査人の解任または不再任の決定根拠としています。

5. 会計監査人の責任限定契約の内容

該当事項はありません。

備考：報告中の記載金額は、表示単位未満を切り捨てて表示してあります。

V. 業務の適正を確保するための体制および運用状況

1. 業務の適正を確保するための体制

当社は、会社法第362条第4項第6号の規定や会社法施行規則の規定に従い、当社の業務の適正を確保するための体制（内部統制システム）について、以下のとおり、取締役会で決議しています。

業務の適正を確保するための体制の整備に関する決議（2023年8月29日 取締役会決議）

（1）取締役および使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

①当社は取締役、社員を含めた行動規範として、「NHKエンタープライズ倫理・行動憲章」と「行動指針」を定め、これらの遵守を図っている。取締役、社員のコンプライアンスの徹底を図るため、「コンプライアンス相談・通報規程」「相談・通報窓口」などを社内に効果的に周知し、適宜、法令等の遵守状況をモニタリングしている。また、「インサイダー取引防止規程」を定め、取締役、社員等によるインサイダー取引の禁止を規定している。

②取締役会については、「取締役会規則」に基づき、適切な運営を確保し、定例で開催するほか、必要に応じて随時開催し、取締役間の意思疎通を図るとともに、相互に業務執行を監督し、法令・定款違反行為を未然に防止する。万一、取締役が他の取締役の法令・定款違反行為を発見した場合は直ちに監査役および取締役会に報告するなどして、その徹底を図る。

③同様に、社長、常勤取締役等で構成する常勤役員会については「役員規程」、または「執行役員規程」を遵守し、職務執行の法令・定款への適合を確保する。また、監査役は、取締役の職務執行、経営機能に対する監督強化を図る。

④コンプライアンスに関する研修や、社内報等による啓発、社員総会を通じて、全社的な法令遵守の推進を図るとともに、「稟議規程」「職務権限規程」「経理規程」等により、取締役および社員の職務執行の透明性を向上させる。

（2）取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制

①「文書管理規程」の整備によって、職務の執行に係る文書・情報の扱いを明文化し、取締役の職務の執行に係る文書・情報の適切な保存および管理を図る。

②「株主総会議事録」「取締役会議事録」「常勤役員会議事録」については、「文書管理規

程」に基づいて適切かつ確実に保存・保管し、取締役および監査役が常に閲覧可能な状態に置く。

③情報セキュリティの確保に関する規程を設け、情報システムの安全かつ適正な管理・運営を行う。

④個人情報については、法令および「個人情報保護規程」に基づいて厳重に管理する。

(3) 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

①「リスクマネジメント委員会運営に関する規程」を定め、社長を委員長とする「リスクマネジメント委員会」を設置し、「NHKグループ コンプライアンスおよびリスクマネジメントに関する規程」に則り、全社的にリスク管理体制の整備・運用にあたる。

②投資的リスク、下請法等法令違反につながるリスク、不正アクセスや情報漏洩等、情報セキュリティに関するリスクに対して、信用調査や対応マニュアルの整備等を通じて対策を図る。また、公共放送グループの一員として、金銭、情報等の取り扱いについては特に厳正を期す。

③親会社であるNHKメディアホールディングスの内部監査室による監査を受け、必要な改善を行う。また業務点検担当者を置き、業務活動の遂行状況を点検・評価するとともに改善提案等を行う。

④危機管理と予防的管理についての体制を充実させ、研修等を含め、損失の危険の管理について全社的な認識向上を図る。

(4) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

①職務分掌に関する諸規程を定め、取締役および各部門の所管と権限を明確にし、経営に関する意思決定および職務執行を効率的かつ適正に行う。

②重要な意思決定については、常勤取締役等による役員会などにより多面的に検討し、慎重に決定する仕組みを設けている。

(5) 当社ならびにNHKグループにおける業務の適正を確保するための体制

①NHKは、子会社等の事業が適切に行われることを目的として、「関連団体運営基準」により、子会社等の事業運営およびこれに対するNHKの指導・監督等に関する基本的事項を定めており、当社もその適用を受ける。

②NHKは、「関連団体運営基準」に規定する事項およびNHKが指定する事項について、監査法人等に委嘱して子会社等の業務運営状況調査を実施し、監査法人等の報告に

に基づき、子会社等に対し必要な指導・監督を行っており、当社もその適用を受ける。

③NHKの監査委員会が当社に対し事業の報告を求め、または業務および財産の状況を調査する場合には、適切な対応を行う。

④NHKの「リスクマネジメント規程」に基づき、リスクの発生防止に係る管理体制を整備し、NHKおよびNHKグループの業務の円滑な運営の確保を図る。

⑤「NHKグループ コンプライアンスおよびリスクマネジメントに関する規程」法令違反・内部規程違反等の不正行為等についての通報制度を整備するとともに、NHKグループに係るリスクについては、リスクマネジメント責任者は直ちにNHKの総合リスク管理組織に対して通報の内容等を報告する。

(6) 監査役の職務を補助すべき使用人に関する事項および当該使用人の取締役からの独立性に関する事項

①監査役からの求めがあった場合には、監査役の職務を補助すべき使用人として、当社社員から監査役補助者を任命する。監査役補助者の任命、解任、人事異動、賃金等については監査役の同意を得たうえで、取締役会で決定する。

②監査役補助者は、当社業務を兼務することができるが、監査役より監査業務に必要な命令を受けた場合は、その命令に関して、取締役等の指揮命令を受けないものとする。

③監査役の職務を補助する部署を人事・総務部および経理部とする。監査役より監査業務に必要な命令を受けた社員は、その命令に関して取締役等の指揮命令を受けないものとする。

(7) 監査役への報告に関する体制

①取締役または使用人は、法定の事項に加え、当社に重大な影響を及ぼす事項やコンプライアンス違反等の事実が生じた場合には、速やかに監査役に報告するものとする。

②監査役は、いつでも必要に応じて、取締役および使用人に対して報告を求めることができる。

③当社は、監査役に報告をした者に対して、その報告を行ったことを理由として不利益な扱いを行うことを禁止し、これを徹底する。

(8) その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

①監査役は、重要な会議に出席するとともに、議事録が作成された場合は、その事務局はこれを監査役に送付する。

②監査役は、親会社であるNHKメディアホールディングスによる監査の結果とその改善状況について報告を受け、定期的な情報交換を行う。

③監査役の職務の執行について生じる費用等を支弁するため、一定の予算を設ける。監査役がその職務の執行につき、費用の前払い等を請求したときは、係る費用または債務が当該監査役の職務の執行に必要でないことを証明した場合を除き、速やかに当該費用または債務を処理する。

2. 業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要

当社の取締役会は、取締役6名で構成されていて、社外監査役2名を含む4名の監査役も出席し、業務執行取締役から業務執行状況の報告が行われるとともに重要事項の審議・決議を行っています。

また、常勤監査役は、取締役会のほか常勤役員会等の社内の重要会議に出席するとともに、取締役から業務執行の状況について直接聴取を行い、業務執行の状況や内部統制、コンプライアンスに関する問題点を監視する体制を整備していて、経営監視機能の強化および向上を図っています。

コンプライアンスに関する取り組みの状況では、社長を委員長とする「リスクマネジメント委員会」を開催し、コンプライアンスやリスクマネジメントに関する報告や決定が行われています。また、全役員、社員等を対象とした研修活動も定期的に実施してコンプライアンスの徹底を図っています。

親会社であるNHKメディアホールディングスの内部監査室による監査を受け、必要に応じて改善を図っています。また業務点検担当者を置き、業務活動の遂行状況を点検・評価するとともに改善提案等を行なっています。

3. 業務の適正を確保するための体制の評価

全社的な内部統制について、NHKメディアホールディングス内部監査室が「統制環境」「リスクの評価と対応」「統制活動」「情報と伝達」「モニタリング」「ITへの対応」という6つの観点から、整備状況および運用状況の有効性を評価しました。

また、業務上重要なリスクを抽出した上で、必要な対応が実施されていることを評価しました。

評価の結果、2025年3月31日時点における当社の内部統制は、概ね有効であると判断しました。